

《 J T A ジ ュ ニ ア 憲 章 》

この一球は絶対無二の一球なり、されば身心をあげて一打すべし。

この一球一打に技を磨き体力を鍛え精神力を養うべきなり。

この一打に今の自己を発揮すべし。これを庭球する心という。

福田 雅之助

1 テニスに親しむ

心身ともにたくましく育つように、スポーツ心を身につけよう。

2 テニスを楽しむ

全国の仲間とコミュニケーションを図り、テニスの輪を広げよう。

3 テニスを理解する

ルールを理解し、正しいマナーと思いやりの気持ちを養おう。

4 テニスで競う

育成・強化を通じて、お互いに競い合い、理想を追求しよう。

(財)日本テニス協会は、地域テニス協会、都府県テニス協会や全国の指導者、保護者と連携し、将来の日本を担う子供たちが、健全で活力あるスポーツ活動を行うことを願い、J T Aジュニア憲章を制定する。

制定 2006年2月2日



《 ジュニア選手 心得 》

私たちは、大好きなテニスの価値を高め、テニスに関わる自分自身の生活を豊かなものにするため、次のことをジュニア選手の心得とします。

1. 生活を通して

フェアプレイ

試合で培ったフェアプレイ精神を活かし、家庭や学校などを含めた社会活動においても、ルールを守り、フェアですがすがしい行動を心がけます。

コミュニケーション

コートの内外を問わず、知り合えた仲間とのコミュニケーションを図り、テニスの輪、友達の輪を広げるようにします。

自己管理

誇りあるテニスプレーヤーになるために、食事をバランス良く摂り、勉強もおろそかにせず、家庭内や学校生活などでの日常生活を通して、しっかりと自己管理に努めます。

土台作り

将来、大きく成長するために、オンコートのテニスの練習だけではなく、他のスポーツや体づくりに取り組み、運動能力を高めることにも挑戦します。また、オーバーワークに注意して傷害を防ぐようにします。

2. コートでは

尊敬と感謝

家族、クラブの仲間やコーチはもちろん、試合会場、大会宿舎などでの「テニスに関わるすべての人々」に対して、尊敬と感謝の気持ちをもって接します。そして何よりも、テニスが出来ることへの感謝の気持ちを持ってプレイします。

ベストプレイ

どんな状況でも勝利のために、最後までひたむきに全力を尽くす「ベストプレイ」を心がけ、たとえ勝っても「相手を思いやり」、また、たとえ負けても「敗戦を誇りある態度」で受け入れ、しっかり相手と握手を交わします。

3. 夢を持って

知識を知恵として取り出し工夫を重ね、夢の実現に向かって日々楽しく「挑戦」します。

伸びる選手の条件

選手自ら、考え、行動することで「人間力」を養おう！

1. 夢(目標)を持ち続けている

- ・ 願望を持ち、その炎を燃やし続けられれば、可能性は限りなく広がる。
- ・ 未来の自分のあり方は、現在の自分が鍵を握っている。
- ・ 夢があれば苦勞も苦勞でなくなる。(小出義雄監督談)

2. 負けず嫌いである

- ・ 何でもいい、一番になる(技術、体力、走力、戦略、度胸・・・・・・・・)
- ・ ライバルを探せ、それに負けるな。
- ・ あきらめるな！(他に方法がないか?) 粘れ！(まだ答えは出ていない)

3. 考える力「ストーリー・プラン」がある

- ・ うまくなるために何をどうすればいいのか？(疑問)
- ・ 知識と情報を集め、いつでも出せるように整理しておく (知恵)
- ・ PLAN DO CHECK (目的意識 実践意識 確認意識)

4. 感じる力「つながり」を理解できる

- ・ 学んだことを体で感じて理解する。
- ・ 自分に必要なこと(フィジカル、メンタル面)を知る。
- ・ 相手が読める (読むトレーニング=セオリーを熟知しておく)

5. 継続する力を持っている

- ・ できないのではなく、やらなかっただけ？
- ・ 習慣づける (1日20分は をする × 一生 = 習慣)
- ・ 自己成長

6. 傲慢と謙虚のバランス

- ・ 表の傲慢 = 自信が過信に変わった時 (こんなはずじゃ・・・・・・・・ あせりになる)
- ・ 裏の傲慢 = わがまま、結果を考えビビる。
- ・ 試合では、謙虚さ(恥ずかしさ)を出すな。

7. 何事にも感謝の心が持てる

指導者に、両親や兄弟に、チームメイトに、関わるすべての人々に
自分の用具に、コートに

そして今、コートに立って練習や試合ができることの喜びに。